

2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年10月31日

上場会社名 セガサミーホールディングス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 6460 URL <https://www.segasammy.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長グループCEO (氏名) 里見 治紀  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員財務経理本部長 (氏名) 大脇 洋一 (TEL) 03-6864-2400  
 四半期報告書提出予定日 2022年11月11日 配当支払開始予定日 2022年12月1日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 ( 機関投資家向け )

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	150,095	11.3	9,574	△34.8	12,300	△16.6	9,619	△19.9
2022年3月期第2四半期	134,893	22.4	14,678	—	14,752	—	12,012	—

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 15,924百万円( 18.9%) 2022年3月期第2四半期 13,391百万円( —%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	43.56	43.34
2022年3月期第2四半期	51.08	50.93

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	437,438	299,535	68.4
2022年3月期	435,492	292,637	67.1

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 299,148百万円 2022年3月期 292,411百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	20.00	—	20.00	40.00
2023年3月期	—	20.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	21.00	41.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	375,000	16.8	40,000	24.8	40,000	20.0	28,000	△24.4
								126.83

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 一社(社名) 一、除外 一社(社名) 一

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期2Q	241,229,476株	2022年3月期	266,229,476株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	20,473,289株	2022年3月期	43,307,930株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期2Q	220,825,119株	2022年3月期2Q	235,191,643株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・当社は、2022年10月31日に機関投資家向けの決算説明会を開催する予定です。その模様及び説明内容(映像並びに音声)については、当社ホームページに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(会計方針の変更)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報等)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

	前年同期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
売上高	134,893	150,095	15,202	11.3
営業利益	14,678	9,574	△5,103	△34.8
経常利益	14,752	12,300	△2,451	△16.6
親会社株主に帰属する 四半期純利益	12,012	9,619	△2,392	△19.9
	円	円	円	%
1株当たり四半期純利益	51.08	43.56	△7.52	△14.7

エンタテインメントコンテンツ事業を取り巻く環境としては、コンシューマ分野におきまして、グローバルでのゲーム市場は、ゲームコンテンツやサービスのデジタル化に伴い、プラットフォームが拡大・多様化するとともに、パッケージ販売やダウンロードコンテンツ販売、F2P、サブスクリプションサービス等による収益機会の多様化や、販売期間の長期化等、市場環境は大きく変化し続けております。足元では、社会経済活動の正常化に伴う消費行動変化の影響を受け、市場動向には落ち着きが見られるものの、今後もグローバルでのゲーム市場の活性化や成長に期待が高まっています。アミューズメント機器市場につきましては、プライズカテゴリーが好調に推移し市場全体を牽引しておりますが、足元ではサプライチェーンの混乱や原材料の高騰による影響が顕在化しております。

遊技機業界におきましては、パチンコ機については複数の人気タイトルが牽引する形で、根強い稼働を維持しております。パチスロ機については規制見直しに対応した新基準となる6.5号機の投入が6月より順次進んでおり、投入後は稼働水準が回復する等、ユーザーに支持されるタイトルが続々と登場しております。2022年11月からは更にゲーム性の幅が広がるスマートパチスロ、また2023年春頃からはスマートパチンコが導入される予定であり、更なる需要拡大が期待されます。

リゾート業界におきましては、引き続きインバウンドは渡航制限の影響を受けております。国内においては当第2四半期連結会計期間において新型コロナウイルス感染症が再拡大したものの、政府及び自治体による緊急事態宣言等の発出が無かったことから、個人客を中心に旅行需要の回復が見られました。

このような経営環境のもと、当第2四半期連結累計期間における売上高は150,095百万円（前年同期比11.3%増）、営業利益は9,574百万円（前年同期比34.8%減）、経常利益は12,300百万円（前年同期比16.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は9,619百万円（前年同期比19.9%減）となりました。

セグメント別の概況は以下のとおりであります。

なお、文中の各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を含んでおりません。

《エンタテインメントコンテンツ事業》

	前年同期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	107,474	116,629	9,154	8.5
セグメント間売上高	399	149	—	—
売上高合計	107,874	116,779	8,904	8.3
経常利益	22,709	17,246	△5,463	△24.1

コンシューマ分野におきましては、フルゲームにおいて、新作タイトルとして『ソウルハッカーズ2』、『Two Point Campus』等を販売し、販売本数は1,014万本（前期は1,404万本の販売）となりました。F2Pにおいては、既存タイトル『プロジェクトセカイ カラフルステージ！ feat. 初音ミク』が引き続き好調に推移いたしました。

アミューズメント機器分野におきましては、UFOキャッチャー®シリーズやプライズ等を中心に販売いたしました。

映像・玩具分野におきましては、映像において、劇場版『名探偵コナン ハロウィンの花嫁』の配分収入等を計上したほか、玩具において、『カメラもIN！マウスできせかえ！すみっコぐらしパソコン プレミアムプラス デコ』等の新製品や定番製品を販売いたしました。

以上の結果、売上高は116,629百万円（前年同期比8.5%増）、経常利益は17,246百万円（前年同期比24.1%減）となりました。

## 《遊技機事業》

	前年同期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	23,335	27,534	4,198	18.0
セグメント間売上高	168	201	—	—
売上高合計	23,504	27,735	4,231	18.0
経常利益	△1,324	2,011	3,335	—

パチスロ機におきましては、34千台の販売（前年同期は31千台の販売）となりました。7月に販売した当グループ初の6.5号機である『パチスロ甲鉄城のカバネリ』につきましては、販売及び稼働面で好調に推移しております。パチンコ機におきましては、『Pモンスターハンターダブルクロス 連続狩猟ver.』等の販売を行い、23千台の販売（前年同期は23千台の販売）となりました。販売したタイトルについては、すべて計画以上の販売台数となり概ね順調に推移いたしました。

以上の結果、売上高は27,534百万円（前年同期比18.0%増）、経常利益は2,011百万円（前年同期は経常損失1,324百万円）となりました。

## 《リゾート事業》

	前年同期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	3,832	5,649	1,817	47.4
セグメント間売上高	93	50	—	—
売上高合計	3,925	5,700	1,774	45.2
経常利益	△3,955	△2,392	1,563	—

リゾート事業におきましては、『フェニックス・シーガイア・リゾート』において、政府や独自の観光需要喚起策が寄与し、当第2四半期連結会計期間の施設利用者数が新型コロナウイルス感染症拡大前の2020年3月期第2四半期連結会計期間を上回る等、個人客を中心に需要の高さが見られました。

海外におきましては、PARADISE SEGASAMMY Co., Ltd.（当社持分法適用関連会社）が運営する『パラダイスシティ』において、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う各国の渡航制限の影響等により、2022年1月～6月のドロップ額（チップ購入額）が2020年1月～6月と比較して29.0%、カジノ来場者数は47.5%となる等、引き続き低調に推移いたしました。一方で、2022年6月以降渡航制限が一部緩和されたことから、日本人VIP客数に回復の兆しが見られました。

※PARADISE SEGASAMMY Co., Ltd. は12月決算のため3ヶ月遅れで計上

以上の結果、売上高は5,649百万円（前年同期比47.4%増）、経常損失は2,392百万円（前年同期は経常損失3,955百万円）となりました。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期通期連結業績予想については2022年5月13日に公表した内容から変更はありません。

各事業における今後の見通しにつきましては以下のとおりであります。

《エンタテインメントコンテンツ事業》

コンシューマ分野におきましては、フルゲームにおいて第3四半期以降、新作タイトルの投入を本格化してまいります。大型新作『ソニックフロンティア』の販売拡大に取り組むほか、ペルソナシリーズのリマスター版となる『ペルソナ5 ザ・ロイヤル』、『ペルソナ3 ポータブル』、『ペルソナ4 ザ・ゴールデン』をはじめ、『Football Manager 2023』、『龍が如く 維新! 極』、『Company of Heroes 3』、『Endless Dungeon』等の複数の新作タイトルを販売する予定です。F2Pにおいては、引き続き既存タイトルの運営強化に取り組むほか、新作1タイトルをリリース予定です。アミューズメント機器分野におきましては、引き続きUFOキャッチャー®シリーズやプライズ等の販売を強化してまいります。映像・玩具分野におきましては、映像分野において各種映像制作や配信等による収入を予定しているほか、玩具分野において新製品及び定番製品の販売を予定しております。

なお、今後の経営環境として、コンシューマ分野においては、物価上昇や人財流動化等の影響に伴う開発コストの上昇及び開発期間の長期化について注視が必要ですが、現時点で大きな影響はありません。アミューズメント機器分野においては、プライズカテゴリーへの需要が継続しているものの、サプライチェーンの混乱や為替変動、原材料の高騰による影響については注視が必要です。

《遊技機事業》

遊技機事業におきましては、第3四半期以降、主力タイトルの投入を本格化してまいります。パチスロ機につきましては、『パチスロハードボイルド』や『パチスロ幼女戦記』等、稼働が好調である6.5号機を引き続き投入してまいります。パチンコ機につきましても、『P七つの大罪2』や『P TIGER & BUNNY ～完全無欠WILDスペック～』をはじめ、複数タイトルを投入してまいります。今後導入予定のスマートパチスロ及びスマートパチンコについても積極的に投入し、「稼働・設置・販売シェア」の向上に努めてまいります。なお、部材調達につきましては引き続き注視が必要であり、適宜対応を進めてまいります。

《リゾート事業》

リゾート事業におきましては、新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限の緩和を前提に収益が回復することを見込んでおります。国内の『フェニックス・シーガイア・リゾート』においては、引き続きCRM強化等の独自の施策にも取り組み、個人客及び団体客の更なる集客強化に努めてまいります。

海外の『パラダイスシティ』においては、2022年6月以降渡航制限が一部緩和されており、日本人VIPのドロップ額については2022年8月から9月にかけて急速に回復しております。今後も高い需要が見込まれるため、引き続きマーケティングの強化等、集客強化に取り組んでまいります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	152,459	135,392
受取手形、売掛金及び契約資産	38,952	33,596
商品及び製品	9,336	16,469
仕掛品	42,145	52,767
原材料及び貯蔵品	16,044	21,001
その他	29,174	32,661
貸倒引当金	△323	△325
流動資産合計	287,789	291,563
固定資産		
有形固定資産		
土地	18,522	18,529
その他（純額）	41,836	41,909
有形固定資産合計	60,358	60,439
無形固定資産		
のれん	3,460	3,190
その他	9,722	9,669
無形固定資産合計	13,183	12,860
投資その他の資産		
投資有価証券	40,699	39,052
その他	33,850	33,906
貸倒引当金	△387	△384
投資その他の資産合計	74,161	72,574
固定資産合計	147,703	145,874
資産合計	435,492	437,438

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	24,455	25,565
短期借入金	10,000	10,029
未払法人税等	2,069	1,141
賞与引当金	8,383	5,464
その他の引当金	1,305	672
資産除去債務	199	—
その他	40,572	38,197
流動負債合計	86,986	81,069
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	32,000	32,159
退職給付に係る負債	4,395	4,440
資産除去債務	2,560	2,606
解体費用引当金	420	420
その他	6,492	7,206
固定負債合計	55,869	56,833
負債合計	142,855	137,903
純資産の部		
株主資本		
資本金	29,953	29,953
資本剰余金	117,689	72,240
利益剰余金	224,684	229,936
自己株式	△77,886	△37,245
株主資本合計	294,440	294,884
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,270	1,793
繰延ヘッジ損益	△33	538
土地再評価差額金	△1,109	△1,109
為替換算調整勘定	41	6,245
退職給付に係る調整累計額	△3,199	△3,204
その他の包括利益累計額合計	△2,028	4,263
新株予約権	176	324
非支配株主持分	49	61
純資産合計	292,637	299,535
負債純資産合計	435,492	437,438

## (2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
売上高	134,893	150,095
売上原価	77,475	91,283
売上総利益	57,417	58,812
販売費及び一般管理費	42,739	49,237
営業利益	14,678	9,574
営業外収益		
受取利息	58	89
受取配当金	77	481
投資事業組合運用益	1,883	1,098
為替差益	400	2,942
その他	273	330
営業外収益合計	2,693	4,942
営業外費用		
支払利息	142	152
持分法による投資損失	1,895	1,360
支払手数料	52	55
投資事業組合運用損	365	458
その他	164	188
営業外費用合計	2,619	2,216
経常利益	14,752	12,300
特別利益		
固定資産売却益	2	0
投資有価証券売却益	16	—
関係会社株式売却益	698	—
助成金収入	36	—
その他	2	—
特別利益合計	756	0
特別損失		
固定資産売却損	1	0
減損損失	203	96
関係会社株式売却損	—	96
新型コロナウイルス感染症による損失	108	—
火災損失	—	80
その他	38	7
特別損失合計	352	281
税金等調整前四半期純利益	15,155	12,019
法人税、住民税及び事業税	3,527	2,258
法人税等調整額	△386	133
法人税等合計	3,141	2,391
四半期純利益	12,014	9,627
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	12,012	9,619
非支配株主に帰属する四半期純利益	1	7

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	220	△487
繰延ヘッジ損益	△7	7
為替換算調整勘定	△131	4,769
退職給付に係る調整額	200	△15
持分法適用会社に対する持分相当額	1,095	2,023
その他の包括利益合計	1,376	6,297
四半期包括利益	13,391	15,924
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	13,389	15,912
非支配株主に係る四半期包括利益	1	12

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年5月13日開催の取締役会において、会社法第178条の規定に基づき、自己株式の消却を行うことを決議し、2022年5月24日付で25,000,000株を消却いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間において資本剰余金及び自己株式がそれぞれ45,480百万円減少しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(リース(米国会計基準Topic842)の適用)

米国会計基準を適用している子会社は、第1四半期連結会計期間の期首より、米国会計基準Topic842「リース」を適用しております。これにより、リースの借手は、原則としてすべてのリースを貸借対照表に資産及び負債として計上することとしました。米国会計基準Topic842の適用については、経過的な取扱いに従っており、会計方針の変更による累積的影響額を適用開始日に認識する方法を採用しております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

(グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用)

当社及び一部の国内連結子会社は、第1四半期連結会計期間より、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。)に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

(セグメント情報等)

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			計	調整額 (注)	四半期連結損益 及び包括利益 計算書計上額
	エンタテインメン トコンテンツ事業	遊技機事業	リゾート事業			
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	107,474	23,335	3,832	134,642	251	134,893
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	399	168	93	661	△661	—
計	107,874	23,504	3,925	135,303	△410	134,893
セグメント利益又は損失(△)	22,709	△1,324	△3,955	17,429	△2,677	14,752

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△2,677百万円には、セグメント間取引消去0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,677百万円が含まれております。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の経常利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			計	調整額 (注)	四半期連結損益 及び包括利益 計算書計上額
	エンタテインメン トコンテンツ事業	遊技機事業	リゾート事業			
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	116,629	27,534	5,649	149,812	282	150,095
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	149	201	50	402	△402	—
計	116,779	27,735	5,700	150,214	△119	150,095
セグメント利益又は損失(△)	17,246	2,011	△2,392	16,865	△4,564	12,300

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△4,564百万円には、セグメント間取引消去1百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△4,565百万円が含まれております。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の経常利益と調整を行っております。